

特集

「全国よい仕事研究交流集会 2012」報告

全国よい仕事研究交流集会2012」が「市民の協同の手による生活圏の創造」をテーマに、2012年9月22日(土・於ニッショーホール)、23日(日・於日本教育会館、サンシャインコンファレンスルーム)の両日にて開催された。主催は日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会、ワーカーズコープ・センター事業団、日本高齢者生活協同組合連合会、協同総合研究所。

1日目の全体会には480名が参加。全国各ブロックでのよい仕事集会の報告の中から選ばれた事業所が登壇し、「人が育ち、仲間が生まれ、コミュニティをつくる協同労働のよい仕事」と題してパネルディスカッションを開催した。5つの事業所からは次のような報告がなされた。

ワーカーズコープセンター事業団大野城事業所(福岡)は障がい児の放課後等デイサービスに取り組んでおり、「子ども・家族を孤立・分断に追い込まないように」と、地域に出て、様々な体験の機会をつくっており、さらに今後は障がいをもつ中・高生の居場所づくりも準備していることを報告。

若者サポートステーション旭川(北海道)は5年目を迎え、地域の企業とともに利用者の就労体験の場をつくる取組みを報告。反対する社員を専務が説得して就労体験を受け入れてくれた企業から、「逆にこちらが学ばせてもらった。会社の活性化にもなった」と感謝された話を披露し、「若者には言葉だけでなく、発信し、人を動かし、地域を変える力がある」と力強く述べた。

ワーカーズコープ山口(旧、光事業団)は4年前から田んぼづくりを通して、組合員の協同から地域との協同に発展させてきた。「地域再生を目標に全県展開したい」と今後の決意を述べた。

センター事業団みなと放課GO→(東京)は学校内で放課後の支援をしており、「生きる力を育む」、「子どもが主人公になれる現場」を目指し、教員と保護者が分断され、批判し合う関係を変える努力を報告。

被災地から仕事おこしを目指す登米事業所(宮城)は、ミニデイ、健康体操推進に地域を回り、区長からの応援も得て、「不安はあったが一歩を踏み出すことの大切さを学んだ」と発言があった。

この5つの事業所に限らず、ワーカーズコープの様々な実践が全国の地域で展開している。2日目は19にのぼる分科会に520名が参加して、社会連帯経営へ進むなかでのよい仕事の位置と意味を深め合う集会となった。今号では各分科会で報告されたワーカーズコープのよい仕事の実践と葛藤を中心に報告する。

(編集部)

